

Title	事務局だより
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学グローバルCOEプログラム論理と感性の先端的教育研究拠点
Publication year	2011
Jtitle	Newsletter Vol.16, (2011. 7) ,p.8- 8
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO12002003-00000016-0080

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

活動予定

■ 脳の講習会 ～脳研究の新しい流れ～

開催日：2011年8月1日(月)、2日(火)、3日(水)、5日(金)
会場：三田キャンパス東館4Fセミナー室
主催：研究成果発信・支援プログラム
企画者：小嶋祥三(脳と進化班)

■ 感性ワークショップ(アートにふれる・心にふれる)

開催日：2011年8月4日(木)
会場：三田キャンパス東館6F G-SEC Lab
主催：GCOEと第3回実験美学セミナーの共催
企画者：川畑秀明(脳と進化班)、後藤文子(哲学・文化人類学班)

■ 慶應義塾大学英語教育 / 言語教育シンポジウム 「学習英文法」

開催日：2011年9月10日(土)
会場：日吉キャンパス
主催：言語と認知班 大津由紀雄
講演者・参加者：江利川春雄(和歌山大学)、大津由紀雄(慶應義塾大学)、斎藤兆史(東京大学)、田地野彰(京都大学)、鳥飼玖美子(立教大学)、山岡大基(広島大学附属福山中・高等学校)、討論者：久保野雅史(神奈川大学)、松井孝志(山口県鴻城高等学校)、討論参加型
司会者：柳瀬陽介(広島大学)

■ 慶應義塾大学人文 GCOE(CARLS)・日本学術会議共催 Animal 2011 サテライト公開シンポジウム 「イヌを学ぶ、イヌに学ぶ」(仮題)

開催日：2011年9月11日(日)午後
会場：三田キャンパス
主催：長谷川寿一(東京大学)
演者：Adam Miklosi(Eotvos Lorand大学)、村山美穂(京都大学)、菊水健史(麻布大学)
指定討論者：藤田和生(京都大学)、永澤美保(麻布大学)
<http://www.saitama-med.ac.jp/medlinks/animal2011/program.html>

■ Toward an Integration of Logic and Sensibility- from Neuroscience to Philosophy-

開催日：2011年9月12・13・14日(月～水)
会場：三田キャンパス北館ホール
内容：各研究班と国外連携拠点より総勢24名の発表のほか、若手研究者のポスターセッションを予定。
※プログラムの詳細が決まり次第、下記の拠点Webサイトに掲載いたします。

その他関連学会

■ 高校生のための体験的脳科学実習

開催日：2011年7月25～29日(月～金)
会場：三田キャンパス423教室
主催：文学部とGCOE共同企画(未来先導基金)

■ Animal 2011 (4学会共催シンポジウム)

開催日：2011年9月8～11日(木～日)
会場：三田キャンパス
主催：日本動物心理学会、日本動物行動学会、応用動物行動学会、日本家畜管理学会
<http://www.saitama-med.ac.jp/medlinks/animal2011/>

プレスリリース情報

慶應義塾大学文学部心理学研究室の渡辺茂教授はマウスを用いて社会的要因が覚醒剤(アンフェタミン)に及ぼす効果を検討しました。

まず、マウスを白、灰色、黒の3区画からなる実験箱に入れて、どの区画にどのくらい滞在するかを測定しました。つぎに覚醒剤を注射してある区画に閉じ込めます。他の区画に行くことは出来ません。翌日には生理食塩水を注射して別の区画に閉じ込めます。この処置を繰り返した後、再び3つの区画を自由に移動できるようにして滞在時間を図ると、覚醒剤を注射された区画への滞在時間が長くなりました。つまり覚醒剤が好きになってしまったのです。今度は同じケージにいる仲間と一緒に覚醒剤の注射を受けるようにします。すると覚醒剤注射の区画での滞在時間がさらに長くなりました。つまり社会的促進によって覚醒剤がもっと好きになってしまったのです。さらに、自分が覚醒剤の注射を受ける時には仲間が生理食塩水の注射、自分が生理食塩水の注射の時は仲間が覚醒剤の注射を受けるようにしました。すると先ほどの社会的促進は見られなくなります。また、面白いことに自分は生理食塩水の注射を受け、覚醒剤を注射された仲間と一緒にされた区画への滞在時間は少なくなることがわかりました。これは覚醒剤を注射されていないマウスは覚醒剤を注射されたマウスと一緒にいることを好まないことを示唆します。このように、覚醒剤の効果は仲間との共同摂取で増強され、耽溺や依存への危険性が増すことがわかりました。

本実験は Behavioral Pharmacology 22 巻 3 号に5月13日に掲載されました。

編集後記 慶應義塾大学人文学グローバルCOEプログラムNEWSLETTER16号をお届けします。当プログラムの最後の年が始まりました。未曾有の大震災からはじまった一年でもあります。震災の被災者の方々に、心からお見舞いならびに復興をお祈り申し上げます。そして震災後に関わらず、当プログラム主催のシンポジウムに参加し、活発な討論を行ってくださった研究者の皆さまにも感謝申し上げます。今号は、それらの活動報告を中心にご紹介いたします。また最後になりましたが、今号の編集にご協力いただきました皆様に、心より御礼申し上げます。(増田早哉子)

慶應義塾大学 論理と感性の先端的教育研究拠点
Centre for Advanced Research on Logic and Sensibility
Newsletter 2011. July. No. 16

発行日 2011年7月30日
代表者 渡辺茂
〒108-0073 東京都港区三田3-1-7 三田東宝ビル8F
TEL : 03-5427-1156
FAX : 03-5418-6728
keiocarls@info.keio.ac.jp
<http://www.carls.keio.ac.jp/>